

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	リベラルアーツ特論2（日本語ディベート）	
科目基礎情報							
科目番号	4AR23			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	プリント等（授業時配布）						
担当教員	金城 博之						
到達目標							
1）社会に必要な日本語による論理的な話し方を身に付けるとともに、意思決定に活用できる。 2）他者の意見を聞いて即座に理解し、論理構造を把握できる。 3）ものごとを批判的に捉え、それに対して自らの考えをまとめることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本語によるディベートができる。			社会に必要な日本語による論理的な話し方を身に付けるとともに、意思決定に活用できる。		論理的な話し方が理解できない。	
評価項目2	日本語で書かれた文章を読んで、論理的に反応（反論・同意）ができる。			書かれている文章を読んで、論理構造を認識できる。		日本語による文章の論理が指摘できない。	
評価項目3	批判的に物事を考え、自分の意見が言える。			批判的に考えることはできるが、自分の意見にはできない。		他者の意見に自分の考えを持つことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
4							
教育方法等							
概要	社会では様々な場面でコミュニケーション能力が必要とされていることは議論を待たない。この講義ではまず、日本語による論理的な話し方を学ぶ。学科対抗でゲームやクイズ等を通してトレーニングを行い、論理性を養う。ノートテイキングの方法を学び、相手の議論をよく理解し、人前で自分の意見を述べる社会人として大切な態度を陶冶する。						
授業の進め方・方法	授業ではゲームやクイズを中心に、動画等も視聴し、楽しみながら授業を進める。各学科単位もしくは学科の枠を超えてでチームを作り、ディベート活動を通して実践的・論理的な話し方を身に付ける。易しい内容を扱った活動（価値ディベート）から始めて段階的に実際のディベート形式の議論へと発展させる。						
注意点	中間テストは行わない。ディベートの勝敗だけで成績が決まらないよう、期末試験はこれまでの内容を踏まえた簡単なレポートを出題する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	ディベート	授業態度	提出物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	40	10	20	0	0	90
基礎的能力	20	40	10	20	0	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0